

日本西洋史学会第 61 回大会小シンポジウム「第一次世界大戦と帝国の遺産」

2011 年 5 月 15 日（日本大学）

趣旨説明

池田嘉郎（東京理科大学）

1. 「帝国の遺産」という視角

- ❖ 2014 年：WWI のもたらしたものをどのような視角で捉えるか
- ❖ 帝国：20 世紀初頭の国際秩序における基本単位
 - ・新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」
- ❖ それぞれが自律的な文明、異なる歴史的背景
- ❖ WWI という共通の経験に関与したとき何が起こるか（帝国の遺産）
 - ・池田報告 ロシア帝国：ソ連への再生
 - ・福田報告 ハプスブルク帝国：広域秩序の可能性
 - ・藤波報告 オスマン帝国：地域秩序の解体
- ❖ 帝国の比較：①地域の違い、②共通の経験、をともに捉える

2. グローバルな共通経験としての WWI：今後の議論のために

- ❖ 世界大戦：歴史的背景の異なる諸帝国が、総力戦という同一の課題に向き合う（「強制的同期化」）
 - ・「帝国の総力戦」：[木畑 2006]
- ❖ 異なる歴史的背景：WWI の影響も異なる形であらわれる
 - ・イギリス帝国にとってのボーア戦争の影：[Mazower 2009]
 - ・大戦と各国の人類学：[Scheer et al 2010]
- ❖ 他方、帝国間・諸地域間のグローバルな共振作用
 - ・アイルランドとイギリス帝国自治領の徴兵拒否運動：[Holland 1999]
 - ・社会の「野蛮化」の共鳴と増幅：[松沼 2010]
 - ・戦争社会主義モデルの普遍性：[和田 1992]
 - ・周縁にある日本帝国の洞察力：[山室 2011]
- ❖ 帝国とネイションは相互排他的ではない：ネイションは共振する諸単位の一つ
 - ・国境を越えた 1848 年革命と異なり、戦争社会主義はネイション単位：[木村 1995]
 - ・総力戦は帰属意識の一元化を促す（「命は一つ」）：[松本 2008]（⇔多民族国家プロイセンの王朝的統合の挫折：[今野 2009]）；兵士墓地の統一様式の強制：[Gregory 2008]
 - ・他方、帝国はグローバルにネイション・エリートを植民地に創出：[秋田 2005]

[Gregory 2008] Adrian Gregory, *The Last Great War: British Society and the First World War*, Cambridge, Cambridge University Press, 2008

[Holland 1999] Robert Holland, “The British Empire and the Great War, 1914-1918”, Judith M. Brown and Wm. Roger Louis (eds.), *The Oxford History of the British Empire. Vol.IV. The Twentieth Century*, Oxford, Oxford University Press

[Mazower 2009] Mark Mazower, *No Enchanted Palace. The End of Empire and the Ideological Origins of the United Nations*, Princeton, Princeton University Press, 2009

[Scheer et al. 2010] M. Scheer, C. Marchetti, and R. Johler, ““A Time Like No Other”: The Impact of the Great War on European Anthropology”, Reinhard Johler, Christian Marchetti, Monique Scheer (eds.), *Doing Anthropology in Wartime and War Zones: World War I and the Cultural Sciences in Europe*, Bielefeld, Transcript

[秋田 2005] 秋田茂「イギリス帝国史研究と地域史の対話」『歴史科学』第 179・180 号

[木畑 2006] 木畑洋一「世界大戦と帝国の再編」『岩波講座アジア・太平洋戦争 8 20 世紀の中のアジア・太平洋戦争』岩波書店

[木村 1995] 木村靖二「ドイツ革命とオーストリア革命」歴史学研究会編『講座世界史 5 強者の論理——帝国主義の時代』東京大学出版会

[今野 2009] 今野元『多民族国家プロイセンの夢——「青の国際派」とヨーロッパ秩序』名古屋大学出版会

[松沼 2010] 松沼美穂「兵士たちはなぜ耐えたのか」『歴史評論』第 728 号

[松本 2008] 松本彰「市民社会と国民国家、そして戦争——ドイツ近現代史における Bürger」『クァドランテ』第 10 号

[山室 2011] 山室信一『複合戦争と総力戦の断層——日本にとっての第一次世界大戦』人文書院

[和田 1992] 和田春樹『歴史としての社会主義』岩波新書